

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290900016		
法人名	株式会社東京酸器		
事業所名	ディアフレンドならしの		
所在地	千葉県船橋市習志野1-13-17		
自己評価作成日	平成22年8月26日	評価結果市町村受理日	平成22年10月14日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2丁目10番15号		
訪問調査日	平成22年9月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設より5年目になり、職員の就業定着が利用者への安心・信頼のあるサービス提供に繋がって、入居という生活空間を、「明るく、楽しく、笑顔のある日々を」の理念の元に、ご利用者と職員と一緒に過ごしているような雰囲気を出すことができてきました。昨年度からは、終末期の実践にも、職員・ご家族・医療関係者の方々と連携を図り取り組んでおります。今年度は、寄り添う介護を目標に、ご利用者・ご家族との関係をより密にできるよう、認知症対応の質向上や関わり合いの充実に進んでいきたいと思っております。また、小規模多機能ホームを併設しており当グループホームへの入居される方も出ており地域密着型介護サービスとしての連携も実際行われるようになっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念・方針をもとに全職員で標語を作成し、価値観を共有し、また研修参加と情報共有化に努めている。また、ユニットリーダーは相談しやすい話しやすい環境づくりを心がけ、結果として職員の定着率が飛躍的に向上している。利用者アンケートからも職員の親切で熱心なケアに多くの感謝の声が寄せられており、サービスの質向上が成果として確認できる。現在より高いレベルのサービス提供を目指して、認知症利用者とのコミュニケーション技術の向上や思いの把握による介護計画充実と実践等に改善目標を設定し努力している。若い職員が誇りある職場目指して努力しているホームである。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。)

自己	外部	項目	東おどり自己評価	西おどり自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待した
理念に基づく運営						
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を元に標語を作成し、会議等で理解を深め、実践に繋がられるようにしている。	地域密着型サービスの方針・理念をはっきりと理解していないが、事業所理念をもとに職員で標語を作成、会議等を通じて理解を深め実践に繋がっている。	創立時考えた理念・方針を基に、標語「明るく、楽しく、笑顔のある日々を」を全職員で考え、共有化している。また、毎月のケース検討の場で話し合い実践化に努めている。	全職員で大切にしている価値観・目標、誇りある職場等を話し合い一人ひとりが再確認することが望まれる。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議で町内と施設の行事計画について情報伝達をし、参加したり施設の交流スペースを活用し共同行事を行い交流を図っている。	運営推進会議で町内と施設の行事計画について情報伝達をし、参加したり施設の交流スペースを活用し共同行事を行い交流を図っている。	町内会等地域の方と情報交換し、町内会の祭り、敬老会等に参加し、また、事業所行事に来て頂いたり、幼稚園児の訪問等活発に交流している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	常に施設を開放し、見学や電話相談に応じたりしている。又、民生員や地域の方々に対して、認知症や事業所について理解や相談しやすいようなチラシやパンフレットを作成配布している。	常に施設を開放し、見学や電話相談に応じたりしている。又、民生員や地域の方々に対して、認知症や事業所について理解や相談しやすいようなチラシやパンフレットを作成配布している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議が開催できるように、意見交換も図れるようになった。その時の意見や要望について、可能な限り実施しサービス向上に努めている。	定期的に会議が開催できるようになり、意見交換も図れるようになった。その時の意見や要望について、可能な限り実施しサービス向上に努めている。	2ヶ月に一度地域の方、ご家族、行政の方が参加して、事業所の報告と参加者からの意見・要望の聴取を行っている。	今後会議がより有効になるように、外部評価結果や目標達成計画の報告により、改善推進のしくみとなるように期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故の報告などは常に行い、運営推進会議にも参加してもらい実情などについて報告している。又管理者が市役所へ電話や出向し事業やサービス向上について常に相談し協力関係を築いている。	事故の報告などは常に行い、運営推進会議にも参加してもらい実情などについて報告している。又管理者が市役所へ電話や出向し事業やサービス向上について常に相談し協力関係を築いている。	常に電話や訪問により、相談や事故等の報告を行い連携し協力関係を築いている。地域での事業者の連絡会等に担当官が参加し情報交換することで、運営状況の理解と協力が得られている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄間の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入職前の面接時や入職時のオリエンテーションの際説明や理解をしてから勤めてもらっている。又、会議やその都度説明し、拘束をしないケアに取り組んでいる。	入職前の面接時や入職時のオリエンテーションの際説明や理解をしてから勤めてもらっている。又、会議やその都度説明し、拘束をしないケアに取り組んでいる。	入職時や会議等で身体拘束ゼロの取り組みを確認し、常に身体状況の観察力を高め、リスクを予防し、拘束ゼロの実績を示している。	今後重度化が進むことが予測されるので、家族への一層のご理解とリスクマネジメントの向上、日常生活のリハビリの向上を期待したい。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全員で日々の身体観察に注意を払い、報告書・申し送り・会議により虐待について理解を深め防止に努めている。	日々の観察を強化し報告書、申し送り、会議により防止に努めている。		

自己	外部	項目	東おどり自己評価	西おどり自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待した
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修での資料等を保管、必要時随時説明し資料を渡している。又、実際成年後見制度を活用されているご家族もいる。	契約書を事前に確認してもらい、契約当日前や当日に質問に応じたり、十分な説明を行い、理解・納得をした上で同意を得るようにしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を事前に確認してもらい、契約当日前や当日に質問に応じたり、十分な説明を行い、理解・納得をした上で同意を得るようにしている。	運営会議での意見や要望、又面会・行事の際に時間を取っていただき、意見・要望を聞き対応、運営に反映できるようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営会議での意見や要望、又面会・行事の際に時間を取っていただき、意見・要望を聞き対応、運営に反映できるようにしている。	面会、行事の際にコミュニケーションを取る時間を設け、意見・要望を聞き反映する事が出来るよう対応している。	多くはご家族の訪問時に意見・要望を聞き運営に反映することが多い。また、アンケートにより「外出希望」を確認したり、親睦会で利用者、家族、職員で対話し要望等を確認し運営に反映している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	稟議書・行事計画書の提出によるものなど、可能な限り受け入れ運営に反映出来るよう努めている。	会議等で話し合い、可能な提案は受け入れるよう努めている。	毎月の東西ユニット毎の会議や2ヶ月度の合同会議で意見交換し、働き方や、行事運営、備品購入等職員の意見を反映し運営している。	全職員が意見を述べ、運営計画に参画することが望ましいので、会議の準備や進め方を工夫する必要があると思われる。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努める	面接時部署の希望を確認取り入れている。又、昇給など給与においては年数の他査定制度を設け、各自が向上心を持って働くように努めている。	面接時部署の希望を確認取り入れている。又、昇給など給与においては年数の他査定制度を設け、各自が向上心を持って働くように努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外部の研修の機会を確保与えられている。又、スキルアップの資格取得に対しての休み等など便宜を図っている。	内外部の研修の機会を確保与えられている。又、スキルアップの資格取得に対しての休み等など便宜を図っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしてい	連絡協議会での会議や勉強会などへ参加時や外部研修時などに交流を図ったり、他施設見学を随時行い、サービスの質向上に努めている。	連絡協議会での会議や勉強会などへ参加時や外部研修時などに交流を図ったり、他施設見学を随時行い、サービスの質向上に努めている。		

自己	外部	項目	東おどり自己評価	西おどり自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待した
安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	会議やフェイスシートにて全スタッフが情報を共有し体験入居により利用者の状況把握をし、安心して過ごして頂けるよう努めている。	体験入居を実施し、状況状態を把握するよう努め安心して過ごして頂けるよう対応している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント・体験入居時、家族とのコミュニケーションを図り、よい関係を構築し、電話や面談など何回でも対応不安のないように努めている。	いつでも相談出来るよう環境を作り近況を報告出来るよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学、面談時積極的にコミュニケーションを図り、必要に応じて他施設への紹介も行う支援に努めている。	必要に応じ他のサービスも説明・導入出来るよう支援している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションにより良好な関係を築き、日常生活上できる事は行って頂き、時には教えてもらったり、手伝ったりと一方的な介護にならないよう努めている。	共通の時間を過ごす関係としてお互いに協力できるよう一方的にならないよう努めている。		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や行事の利用者の近況・報告や相談を受けたり、また、日常的な事は一緒に行って頂き共に利用者支援して行けるよう、良好な関係を築けるよう努めている。	面会・行事の際、状況を報告し相談しあえる関係を築くよう努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所・人が遠い場合難しいが、ご家族と相談し外出できるよう支援に努めている。	面会・外出の機会をご家族に依頼し懐かしい場所へ行事等で行ってみたり支援するようにしている。	家族や親しい友人の面会や外出、家族と一緒に外出、外泊など馴染みの場所に出かけることが多い。外食や散歩の希望で行きたい場所に出かけるなど支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同志が、共に楽しめるよう状況の把握し、レクや座席等々考慮しスタッフが間に入り、良い関係が保てるよう努めている。	自然とコミュニケーションが図れるようスタッフが間に立つよう努めている。		

自己	外部	項目	東おどり自己評価	西おどり自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待した
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話連絡や、近くであれば時間を作りご自宅へ行きお茶をごちそうになったり、行事等で来所して頂き関係を保てるよう努めている。	来所して頂いたり、他利用者様とご自宅に行きお茶をするなどしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で思いを聞き取るよう努めており、又自らの思いを伝えられない方についてもスタッフ間で何が本人にとってよいのか、家族希望も含めて、会議等で話し合い意向に添えるよう対応している。	本人の意向を把握し、困難な場合は会議で話し合い、希望に添えるよう対応している。	日常生活での対話により何をやりたいのか、希望等を把握している。また、生活歴や性格、趣味、好きなこと等家族より聞き、思いの把握に努めている。	本人の思いをより深く理解するために、センター方式の活用やコミュニケーション力の向上等期待したい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の生活歴調査表にて情報収集を行い、本人・家族とのコミュニケーションの中でさらに聞き取り、可能な限り以前の暮らし方に近づけるよう努めている。	生活歴調査表やご本人・ご家族とのコミュニケーションにより、情報を得て可能な限り以前の生活環境に近づけるよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者にかかわる、医療・マッサージ師・ご家族・職員間での情報の交換・共有し、現状の把握に努めている。	利用者様にかかわる医療関係者、マッサージ師と情報を共有し職員間でも情報交換するよう努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成	ケアプランの見直しやケアカンファレンスは十分に出来ていないが、ご本人・ご家族・その他医療関係者・職員の意見を取り入れ作成している。	日常の記録をもとにカンファレンスを実施しご本人・ご家族・関係者の意見を取り入れ作成している。	カンファレンスに開催前に職員が観察意見を記入し、現場職員の意見、ご本人・家族の意見、関係者の意見を基に介護計画が作成されている。	よりよいサービス提供を目指して、全職員が観察意見を記入することや、計画の実践化のため記録様式の改善等望みたい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録・申し送り・会議にて情報を共有し、実践に繋げ、又ケース記録は、一日の生活内容が分かるよう記録し、変更の際はカンファレンスにて見直しに努めている。	記録用紙に記入し職員間で情報を共有出来るよう努め、変更の際はカンファレンスにて見直しに努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホーム(東・西)の連携を図りながら、又ボランティアの活動も利用し、可能な限りニーズに対応して行けるよう努めている。	一人一人のニーズに可能な限り対応し出来ない事をなくするよう努めている。		

自己	外部	項目	東おどり自己評価	西おどり自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待した
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事等において定期的なボランティアを活用し、地域住民との交流を図っている。	定期的なボランティアを活用している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時ご本人・ご家族からの希望を取り入れ、ご家族付き添い受診が出来ない場合は付き添い、医師へ状況の報告を行っている。	契約時ご本人・ご家族からの希望を取り入れ、ご家族付き添いの受診が出来ない場合は付き添い医師への状況の報告を行っている。	契約時に本人及び家族と話し合い納得を得た上で事業所の協力医をかかりつけ医にしている。家族の強い希望で従前からのかかりつけ医に継続受診する利用者が2人居る。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援	毎日健康チェックや観察で利用者の身体状況を把握、「いつもと違う」と感じたらすぐに報告・往診や受診などその時の状況により支援している。	毎日健康チェックや観察で利用者の身体状況を把握、「いつもと違う」と感じたらすぐに報告、往診や受診などその時の状況により支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを	入院した際、定期的な面会を行い、医療関係者・ご家族より情報を集め、いつでも受け入れ出来るよう努めている。	入院した際定期的な面会を行い、医療関係者・ご家族より情報を集め、いつでも受け入れ出来るよう努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族へ、ターミナルへの意向を聞き、施設で出来ることを説明した上で、それに応じた対応を行い、医療関係者・ご家族・職員協力のもと取り組んでいる。	施設で出来ることを説明した上で、ご家族の要望を反映し、対応出来るよう、医療関係者やご家族・職員協力し協力し取り組んでいる。	終末期ケアについて職員は前向きに取り組んでおり早い段階から本人・家族と話し合い施設として出来ること出来ないことを説明した上で「延命及び治療についての同意書」をとり対応している。	終末期支援のあり方について事業所としての基本的な考え方(方針、指針)が明文化されていないので整備されることを期待したい。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部・外部研修を行っているが、実践する機会が殆どなかった為、身についていない。今後も急変に備え定期的に行っていくよう努めたい。	研修は受けているも定期的ではなく実践は不安である。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	1カ月、若しくは2カ月に一度利用者様・職員参加で避難訓練を実施している。	利用者様、職員参加の定期的な避難訓練を実施している。	消防署の指導の下で地域の方の参加を得て大規模な消防訓練を実施している。また、定期的に避難訓練も実施している。飲料水などの備蓄品もある。	

自己	外部	項目	東おどり自己評価	西おどり自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待した	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々を尊重する決して命令口調にならないよう疑問系の話し方が出来るように、又傾聴を忘れない対応を心掛けている。	命令口調はせず、出来る限り疑問系での声掛けを行い、傾聴を忘れず利用者様の思いを汲み取るよう対応している。	利用者の尊厳を守るために決して命令口調にならないよう言葉遣いや目線などに配慮し、万一不適切な対応があった時にはその場で注意している。定例会議でも周知徹底を図っている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けに工夫することにより、希望の表出や自己決定の支援を心掛けている。	コミュニケーションを多く取れる環境を作り、ご本人の希望を聞き出し、意志に添えるよう努めている。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自ら訴えない利用者の介助は職員の都合に合わせてしまうことがある。これからは寄り添う気持ちを持って支援に努めていきたい。	日々の会話を通し希望を取り入れるよう努めている。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類はご家族に好みのものを持って来て頂いている。女性の化粧は日常的にはなかなか出来ない為、機会を増やしたい。理美容は地域の店を利用している。	ご本人の好みのものをご家族に用意して頂き、行事や外出の際は化粧も行って。理美容は地域の店で行っている。			
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る範囲での準備や下膳を行っている。おやつと一緒に食べることはあるが、一緒に食事をすることが余りないので、調理レク等企画し、一緒に楽しめる機会を増やしていきたい。	外食レクや調理レクを行い、一緒に行い会話をしながらの調理・盛り付けを心掛けている。	昼食は委託業者が調理まで仕上げるため盛り付けを職員・利用者で行っている。朝、夕はADLの低下していない4、5人が下ごしらえなど手伝っている。外食レクや調理レクは、利用者に好評である。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	こまめな水分補給を行っておりチェック表にて、それぞれ記録し、それに応じて十分水分量が確保できるよう心掛けている。	こまめな水分補給を促し、摂取量(水分)量の確認をし、個人的にあった内容にしている。			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、場合により介助。拒否時は時間をずらし対応。夜間はポリドント洗浄を行っている。又毎週歯科の訪問もあり、医師や衛生士との連携を図り利用者様の支援に努めることが出来る	毎食後口腔ケアを実施し歯科医師との連携を取り、個人的にあった清潔保持に努めている。			

自己	外部	項目	東おどり自己評価	西おどり自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待した
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表にて個々排泄パターン把握に努め、日中夜間共にトイレで排泄できるよう努めている。	個々の排泄パターンを把握し、出来る限りトイレでの排泄が出来るよう努めている。	チェック表から個々の排泄パターンを把握し、サインも見逃さずトイレでの排泄に努めており、日中のオムツはゼロである。今年度から失禁予防のための体操(腹圧強化の運動など)を実施している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を確認、毎日運動を心掛け、乳製品の摂取や薬で調節を行い便秘の要望に努めている。	排泄の確認をしっかりとし、飲食物のコントロールや薬の調節、適度な運動を心掛けている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員体制、利用者のADL低下の為、入浴時間は限られてしまうことが多いが、臨機応変な対応も行っている。	個人の希望に合わせて時間に捉われず入浴して頂いている。	行事や職員体制の関係で入浴時間帯は午後が基本であるが、個人の希望には出来る限り臨機応変に対応している。曜日の制限はしていない。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中ソファで休息することもあり、就寝前には、ココアを召し上がり、リラックスした気持ちでの入眠を促している。	昼夜逆転に注意し、利用者のペースに合わせた就寝時間を設定し、昼夜は無理のないよう声掛けに努めている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬・未服薬のないよう職員同士声掛けを行い処方箋による薬の把握を行い、事故のないよう努めている。	誤薬・未服用に注意し、報告・連絡を徹底し事故のないよう努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各自の趣味や洗濯物たため、又調理の手伝いなど家族の役割を持って又、個々の好きな嗜好品等は用意している。	日々の生活の中で役割を持って頂き、ご本人の好きな事、嫌いな事を把握し生活して頂けるよう努めている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・ドライブ・買い物又、個別対応での外出を心掛けており、家族へ外出のアンケートを実施した。今後家族とでかける機会を増やしていきたい。	集団での散歩や外出は出来ており、現在個別の外出にも取り組んでいる。	集団での近隣散歩、ドライブ、買い物などは頻回に実施している。また、やや遠隔地のバラ園、ビール工場、葛西臨海公園などへの遠出も企画実施している。	現状では、個別の外出支援が十分でないことを認識されており本年8月に家族から外出に関するアンケートを実施している。この結果を生かして今後家族の協力も得ながら個別の外出がより充実することを期待したい。

自己	外部	項目	東おどり自己評価	西おどり自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待した
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出・買い物の際、希望の物を購入できるよう支援している。	買い物の際はご本人にお金を持って頂き、可能な限り自分で購入してもらえるよう努めている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人で携帯電話を所持したり又、職員が窓口となり電話、手紙のやり取りができるよう支援している。	居室に電話をつけている利用者もあり、他の方も必要な時は電話を使用して頂いている。手紙は年賀状等今後の課題。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃、換気により心地よく過ごして頂けるよう支援し、又、折り紙を使用し季節感の出る物を作成している。	季節に合ったかざり付けや書道の作品をはり季節を感じて頂いている。	中庭の空間があることにより、共用空間は太陽の光が差し込み明るく風通しも良い。季節感、壁や玄関に季節にあった飾りつけをするなど工夫している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの位置、座席の位置を工夫し、又ソファにて個々がくつろげるようにしている。	食堂スペースの他、ゆっくりとテレビ視聴や談話ができる、テレビとソファを設置してくつろぎのスペースを確保し利用者・ご家族・職員がコミュニケーションを図る場所として活用している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に家具やベッド、他必要と思えるものは自由に持ち込んで頂き、他写真や部屋の飾りつけ等は、ご家族・職員で行い、居心地よく過ごせるよう工夫している。	基本的に家具やベッド、他必要と思えるものは自由に持ち込んで頂き、他写真や部屋の飾りつけ等は、ご家族・職員で行い、居心地よく過ごせるよう工夫している。	利用者の使い慣れた家具や飾り物、仏壇などが持ち込まれ、併せて部屋のレイアウトは家族・職員とが一緒に行い環境が急激に変化しないよう配慮している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の居室、トイレ等に分かり易いよう貼紙を設置し必要の際は介助を行い留意している。	アセスメントを通じ日々変化する利用者様の状況を把握し、自立支援に努めている。		